

事業実施報告書

団体名：特定非営利活動法人志木総合型地域スポーツレクリエーションクラブ
(NPO 法人クラブしっきーず)

事業名：～中学生は地域の宝～ しっきーずの“かしわな”レスキュークラブ

1 事業の目的

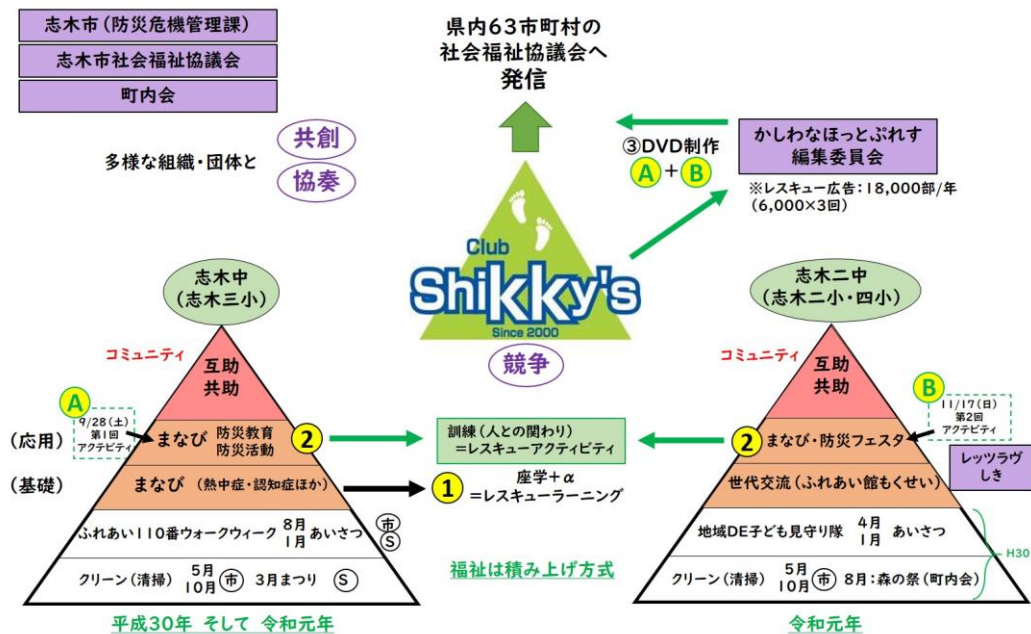
地域福祉の今日的課題として、担い手の高齢化がある。過去の積雪時に、除雪が進まず、初動の大切さを痛感したことから『地域貢献のしくみ』として、若い世代に働きかけ、中学生とレスキューに取り組んだ1年目。2年目の令和元年度は、さらに隣接する他の中学校区における連携協働を推進しながら“もしものとき”に備えて地域の支え合い意識・防災意識を高めることを目的とする。

2 事業内容

(1) 事業の概要

- ①レスキューラーニング（まなび基礎部分）・・・対象：中学生
4分野のレスキュー検定（ペーパーテスト）
- ②レスキューアクティビティ（まなび応用部分）・・・対象：小中学生及び地域住民
志木市総合防災訓練（柏町地区/9月）、志木市防災フェスタ（館・幸町地区/11月）
- ③レスキューDVD（映像制作）・・・・・・・・・・対象：県内63市町村の社会福祉協議会

事業のイメージ（2年目）



(2) 事業の流れ

1. レスキューラーニング (検定)

日時 / 内容	参加者	備考
①令和元年 7/12 熱中症	45 人	各部活主将・副主将を中心に
②令和元年 10/17 防災総合	40 人	2年4組全員
③令和2年 1/30 認知症	41 人	2年4組全員
④令和2年 2/26 救急・応急	20 人	コロナウイルスの感染拡大の影響により希望生徒に下校時配布

2. レスキューアクティビティ (防災訓練 体験参加)

- 9/28 (土) 9:00~12:00 志木第三小学校 200名 (うち中学生8名)
- 11/17 (日) 10:00~14:00 志木第四小学校 1,000名 (うち中学生8名)

3. その他取り組んだ内容

- 7/16 (火) 13:30~15:00 小中合同引き渡し訓練
(小学生の妹・弟がいない中学生を対象にレスキュー講話&〇×クイズを実施)
- 10/18 (金) 15:00~ 志木中学校防災教育研究発表会への参加
- 11/20 (水) 13:00~15:00 志木第三小学校避難訓練 (視察・課題抽出)

※学校・レッツラヴしきとのミーティング全8回 / クラブ内ミーティング全3回

【 事業の様子 】



(小中合同引き渡し訓練)



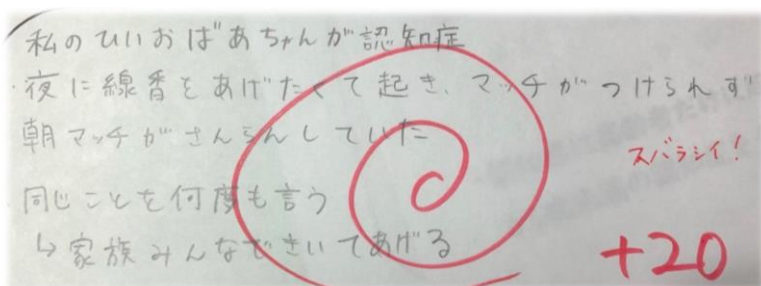
(志木市総合防災訓練)



(志木市長の前でα米の炊き出し in 防災フェスタ)



レスキュー検定を中学生向けに実施



←レスキューラーニング

自由記述欄のコメント（認知症）

「私のひいおばあちゃんが認知症。夜に線香をあげたくて起き、マッチがつけられず、朝にマッチが散乱していた。また、同じことを何度も言うけど、家族みんなで聞いてあげる。」

（3）連携・協力機関

志木市（防災危機管理課）、志木市社会福祉協議会、町内会（柏町地区7町内会）
志木中学校、志木第三小学校、志木第二中学校、志木第四小学校、レッツラヴしき
かしわなほっとふれず編集委員会

3 成果及び今後の展開

①志木中学校の教職員・生徒間で「しっきーず」の認知度が上がり、本事業に関する連携協力がスムーズになった上、その他の事業についても支援が強まった。その結果、より多様な組織とタッグを組めたことで相乗効果があらわれた。

②他団体や関係機関の職員から当クラブに寄せられる「良い活動していますね」「いつもありがとう」という言葉が、当クラブ全体への高い評価となって、関わるクラブメンバーのモチベーションアップへと繋がった。特に、福祉活動に取り組む姿勢が、学生の論文や団体の調査研究に取り上げられ、「モデルとして好事例」という記述は、方向性の確かさが裏付けられ、嬉しいものであった。

③中学生の地域活動への参加が、生徒にとっては期待を感じることによる意識の変化、地域にとっては色々なシーンで活気があふれ、両方にとってプラスになることが実証された。

④一方で中学生は部活動もあり、地域活動時間の確保など調整が必要となることは否めない。日頃から顔の見える関係を地道に構築していく努力が、信頼に繋がると思われる。

（今年度は、中学校より研究発表会や卒業式・入学式への出席要請があった）

⑤DVDの県内市町村社会福祉協議会への発信は、一步を踏み出したに過ぎず、可能性のある団体組織へは、会社・企業も含め、発信し続けることが不可欠と思われる。

◎まとめに

3/3 現在、『雪かき出動』はない。しかし、台風 19 号後の柳瀬川河川敷清掃・埼玉県の土砂掘削事業に伴う河川敷清掃において、中学校や土木関係の会社との連動をスピーディーかつフレキシブルに進めることができ、まさに「地域の支え合い」につながる光景となった。